

# 障害者差別の事例集を公開

## 市HPや担当窓口で

明石市は、障害がある住民が社会生活を送る上で差別を受けたと感じた場合や配慮を受けて助かったと感じたケースを具体的に紹介する事例集の公開を始めた。約200件が掲載され、市のホームページなどから見る事ができる。

障害者差別解消条例の制定を来春に予定している市は、施策を進めるための一環として

今年4月に事例を募り、聴覚障害者22人、精神障害者8人、知的障害者6人など68人から体験談が寄せられた。

手話言語条例の検討委員から出された事例56件を含めると、差別を受けたと感じた場面は「公共交通機関、公共的施設・サービス」が32件を占め最多だった。続いて「商品・サービス」の20件、

### 差別を受けたと感じる事例

- 身体障害者 つえを突いてバスから下車する際にドアを閉められ、挟まれてけがをした
- 聴覚障害者 病院で、診察や会計の案内が自分に伝わらず後回しになる
- 視覚障害者 ドラッグストアの店先で、商品が点字ブロック上にはみ出していた

### 配慮を受けて助かった事例

- 身体障害者 バス運転手が市バス時代より親切になり、優しく声を掛けてくれる
- 聴覚障害者 病院で、聴覚障害者は順番が来たら呼びに来てくれる
- 視覚障害者 飲食店で水や料理が運ばれたとき、手首を持って位置を教えてくれた  
(寄せられた事例の一部)

「情報・コミュニケーション」の19件が多く、そのほかでは雇用、福祉サービスなどが続いた。一方、配慮を受けて助かった事例は52件が集まった。

市の担当者は「差別を受けたと感じる場面の多さを広く知ってもらうとともに、どのような配慮を受ければ助かるのかを知る手掛かりにもしてほしい」と話す。

一覧は市福祉総務課障害者施策担当窓口で

も閲覧できる。同窓口  
☎078・918・5142、ファクス078・918・5133  
(井原尚基)